



### 新春の集い

昭和58年1月30日

お出でをお待ち申します

何かと思ひ出の多かつた五十七年も過ぎ、新しい年に豊かな希望をかけて、新春をお迎えのことと存じます。

このときに当りまして、皆さんと一堂に集まり、ともに語り合い、互いに来福を期待したいものです。

恒例により新年会を企画しました。どうぞ、先輩や親しいお友達を呼びあって、ご出席くださいますよう、ご案内申します。

一、日時 58年1月30日(日) 午後一時(正午受付)

一、会場 港区 芝増上寺(西館、二階大広間)

一、会費 三〇〇〇円(折詰、飲物、果物、福引)

一、返信 1月22日までに届くようお願いいたします。

一、返信 1月22日までに届くようお願いいたします。

一、返信 1月22日までに届くようお願いいたします。

昨年同様のご協力により、手製の作品やら、家庭に眠っている日用品を、福引としてさし上げたところ、たいへん好評でしたので

本年もお願ひすることと致しました。

当日、会場へお持ちになってください。昨年は三十一名の方から、六十五点集まりました。

### 予告

昭和58年、春の総会5月29日

会場は東京新潟県人会館の予定

同級会はこの日を避けて下さい。

箱根花の旅 4月17/18日

青樹荘に一泊。ほか観光も。

### 会の動き

片貝小運動会に

6月3日

好天に恵まれ盛大に行われた。

ちょうど帰郷中の相崎勇次さん(副会長)が来賓として出席した。

当日のビデオテープを、会に寄贈していただいた。

墓地公園が竣工

6月13日

上の墓地が立派に舗装され、入り口に見事な碑も建った。星野市長の筆による。佐藤会長が出席して、テープカットの一員となった

尚この企画に対して、協力の呼びかけがあり、東京片貝会員二二名が二十万余円の拠出をした。有縁の方は今からでもどうぞ。

第二十四回総会 6月20日

アサヒビヤホールで。二面参照

ふるさと学校 8月17/20日

詳しいことは四面参照

新潟県人会館落成

10月25日

台東区上野一丁目、新しい会館ができた。食事もでき、ビジネスホテルとして、県人会員や一般に広く利用できるようになった。

当日佐藤会長が出席。佐渡の鬼太鼓など披露されて盛会だった。

役員会 10月30日

自動車健保会館で、二十一名が出席、新年会、24回総会の計画を相談した。また母校の振興についても協議、この責任者として、佐藤祐一さん(昭27)が。ほか黒崎正、藤塚悟、大塚国夫、諸我時夫、吉井信三各氏にも加わっていたことになった。

母校で第一回記念講演会11月8日

片貝中の体育館で、三面参照

### 役員改選

青年部の浅田好司さんが亡くなられたので、吉井信三さん(昭32)にそのあとを。女性の理事として、平石フミ(昭7)、奥田佳子(昭9)、青木富代、丹治きみ(昭18)の四氏をお願いしました。ほか現役員は全員が再任ということになった。どうぞよろしく。

# 春の集い

57・6・20

墨田川を上って、浅草へ  
ことしの総会

汗ばむほどのよい日和だった。国電浜松町駅に集合してもらい、竹芝棧橋から、正午の船で一路隅田川をさかのぼった。初夏の潮風が快い。日頃、陸から見ていた東京を、川面から眺めるのは新鮮であった。

船は五十分ほどで、吾妻橋に着く。そこから橋のたもとにあるアサヒビヤホールの会場に集まる。

## 総会の模様

相崎(勇)副会長の司会で、一時半に開会した。全員で「ふるさと」を合唱。開会のあいさつは相崎(善)副会長が遠来の来賓及び出席の皆さんに謝意を述べた。会計報告、役員改選後、各来賓から郷里の現状と将来の展望を話された。

・協議会長、吉井進吾氏



町裏と西側地区に敷設されていない、消雪設備を早期に実現したい。又山手地区に、住宅工業団地を建設したい。  
(写真 遊覧船)



・農協組合長、本田初太郎氏

農業人口の減少に対する対策及び、休耕田の活用など、今後の農業振興に対して農協が果している使命について、抱負を語られた。

・体育協会長、丸山良平氏

最近運動熱が高まってきたこと  
中学校の女子がバレーの市内大会で優勝した。又仲使山墓地公園の改修とこれからの建設計画についての協力要望があった。

・市会議員、本田善治氏

小栗田にできる国立老人ホームの建設、火葬場の改築、魚沼線の廃止に伴う今後の見通し、日本一

の三尺三寸玉の打ち揚げ計画など  
・公民館長、吉田一雄先生

活動の現状と、昨年始めて実施されたふるさと学校の様子、本年も多数の参加を要望したい。

・小学校長、田口 信先生

北運動場が改築されたこと、今春の校庭の桜が美しかったこと、あいさつ運動の成果と、来年秋に文部省指定の道徳教育の発表に目下努力中です。

・中学校、高橋健吉先生

他校に比して態度が立派である郷土のことを知らない子があるので、その指導と根性の養成に力を入れていく。

このあと、特別会員の太刀川太郎氏と恩師の箕輪先生から、それぞれ感銘深いあいさつがあった。

小、中の校歌を全員で合唱し、安達宗吾さんの閉会のことばで、滞りなく終了した。

## 楽しかった懇親会

副会長の芝三四司さんと年次代表の友田正雄さんの進行で、楽しい団らんがくりひろげられた。談笑に、歌に、踊りに興は尽きなかった。楽しかった春の集いも、全員の木遣り音頭合唱で、またの再会を期して終了した。

○出席者(八七名、敬称略)

来賓9名、右の記事参照  
○大正

丸山松江、黒崎セキ、太刀川藤吉  
大矢福次、水内修治、太刀川キヨ  
相崎尚次、神林徳次、広井三代次  
佐藤量八、横山秀雄、三重堀繁蔵  
安達宗吾、星野三作、石黒ミス

○昭和21~30

山口ヨシ、丸山広弥、浅田喜八郎  
小宮孝作、相崎勇次、日下部政子  
小川茂雄、山田雅子、松井重治  
吉井武二、芝 五郎、丸山千代野  
黒崎スヤ、安達 武、黒崎定太郎  
大塚ミツ、山口三郎、藤塚栄三郎  
浅田鉄二、丸山 春、石黒佐忠太  
芋川とし、大矢幸治、相崎善次郎  
平石フミ、芝三四司、長谷川ウメ

○昭和31~40

佐藤彦一、吉原菊枝、山口武一郎  
奥田和男、奥田佳子、  
高橋四郎、安達保治、太刀川善蔵  
浅田鉄夫、佐藤広次、五十嵐アキ子  
山口ヒデ、藤塚吉雄、山口吉五郎  
相崎ヨシ、石原ミツ、青木富代

浅田 猛、丹治きみ、岸野タカ  
浅田栄三、西山和子、小宮幸雄  
村木タウ、友田正雄、金井ヨシ子  
清水ミイ、三重堀清、

○昭和21~32

山岸慶昭、浅田六郎、小野塚 茂  
山崎勝子、石川春子、藤塚 悟  
芝 満男、諸我時夫



## 自分の頭で考え、自分を伸ばす

先輩による母校記念講演会  
11月8日・東京片貝会主催

二月のある夜、有志数名でコーヒーを飲みながら話し合ったことがある。片貝会は懇親会だけでも十分意味ある会だけれども、もっと新しい眼を見開いて、郷里の為に何か役立つことをしようじゃないか、という話になった。

そこで考えたのが、今回の講演会である。年一回小、中学生に集ってもらい、経験豊かな先輩の話聞いてもらうことにしては……と、校長先生に話したところ、快く賛同をいただいた。

何しろ事の始めなので、役員会にはかたり、いろいろと案を練ったりした。

講師には、二の町出身の安達生恒さん(昭5)をお願いすることとした。安達さんは二の町八島屋の御曹子で、京都帝大を卒業後、同大学の助教授や島根大学の教授をされた。農業問題の権威、全国的に親しく農民とも接触し、大きな足跡を残され、昨年退官された。目下、東京に農学研究所を開設して、講演に、文筆に寧日がない。

のすくようなご返事をいただいた。当日は曇り空ながら、暖く澄きよい一日であった。

中学校の体育館には、中学生全員と小学生五、六年の児童、PTAの人達や町の有志の方も出席されて、さしもの広い会場も、ぎっしり埋まるほどであった。演題は二十一世紀に生きる青少年の在るべき姿

お話の内容は、食糧とエネルギーについて、世界的視野から、その見通しを日常生活に関連づけて分り易く、示唆に富んだ話をされた。更に、今の教育問題について、自分の子ども時代の体験を話され、〇×式の教育から脱却して、自分の頭で物を考え、自分のやりたいことにうち込んで進めば、あなたの将来は必ず成果あるものとなるでしょう、と結ばれた。

人に動かされず、自主性のある生き方に徹することが、自分をきりひらく、と示唆に富んだお話し。みんなに大きな感動を与えた。

この講演について、同窓会長の吉原芳郎氏より、心温まるご協力を

をいただいた。又田口、林校長先生をはじめ、先生方のお世話になったことに深くお礼申しあげます。佐藤会長も東京から駆けつけて、安達先生の紹介やら、関係の皆さんに、謝意を表した。ほんとうにありがとうございます。

### 日本一は世界一

三尺三寸に観衆十万人

#### 秋祭りに人の波、波

八日の前夜祭は小雨の中の民謡流しで、秋祭りの幕が開いた。

九日もひき続き小雨で、筒引きの人達も濡れながらの練り歩きで思いもしめり勝ちであった。が、夕方より晴れてきて安堵の胸をなでおろした。花火が神社の森に美

しく轟いた。

十日の朝は秋日和の輝く中を、恒例の鼓笛隊の小学生が、町の上から下まで、人々の心をうきうきさせる。午後から肉弾相うつ角力が始まった。片貝会からいつもの通り五人抜きに、賞金を出した。その角力が一段と熱を帯びてきた頃、昼の三尺玉が綺麗に空いっぱい広がった。

三尺玉は九日の十時、十日の二時と九時半に三発上がったが、どれも皆見事な開きであった。いよいよ日本最大の三尺三寸は、予定を少し遅れて十時二十分に上がった。豪音が天に轟く一瞬、鮮やかな小割れが空いっぱい開いたと見るまに、大玉が空を圧して美しく開いた。天を仰いで、一斉に感謝の息を呑んだ。

因みに三尺玉は、佐藤冬作氏遺族、伸竹会、しなの産業のものである。三尺三寸は永遠会が揚げたまた、新辰巳会が尺玉を四十二発揚げて話題となった。そのほか、数多くの花火が揚げられた。

この夜三尺三寸を見ようというので、神社の境内は、身動きもできないほど人で埋まった。観衆は六万とも、あるいは十万とも報道されて、片貝の花火は一層天下に喧伝されることとなった。



ふるさとは今

中学校のプール完成

7月10日 小学校のプールは百周年を記念して、既に完成しているが、中学校のプールが夏休みに先駆けて完成した。二十五米の立派な設備で、盛大に竣功式が行われた。

南極観測記念講演会

7月15日 佐藤和秀さん(昭34)は去る五十年に南極観測に参加されたが、今回は二回目である。同窓会が主催して、町や協議会後援のもとに、中学校体育館で講演会が行われた。生徒のほか、町の有志も多数参加した。スライドを中心にして、感銘深いものであった。講演会のあと、ふるさと会館で慰労歓迎会があった。佐藤さんは現在長岡高専の助教として、学究の道に専念

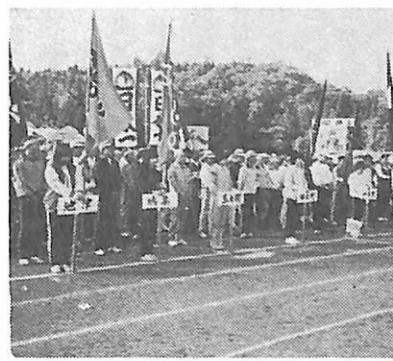
会計報告

総会で詳しく報告しましたが、紙面の都合で、概略を報告します。収入は会費(四七一名)、繰越金、寄付、銀行利息など。一、六九八、五七五円。支出は総会、新年会、通信印刷費、会議費、ふるさと学校、県人会費など。残高は別途積立金三〇万円、繰越金三二万〇五三二円となりました。

されている。

片貝から教育委員が

10月12日 鈴木義隆さん(昭28)は三の町の歯科医で、同級会の会長もされている。こんど小千谷市の教育委員になられた。益々のご活躍を祈ります。



町民大運動会

10月17日 秋祭りにつぐ大行事で、町民が中学の広いグラウンドで、終日楽しさを満喫した。天候にも恵まれ、幼児から成人までが、ひとつ心に解けあって過ごした。

今年から山屋チームも、初めて参加して、九チームとなった。総合成績では四之町が優勝、続いて三之町、町裏、一之町、二之町、

池津、鴻巣、五之町、山屋の順であった。

町民駅伝大会

10月31日 一組が五名で約十二キロを走る。グラウンドを出て、八島、鴻巣、山屋、池津と廻って、再び出発地に戻る。例年行われているが、今年は四十一組も参加した。町内の声援で、大変な賑わいだった。

男子では、中学チームが一位、以下中学、八島、小学校、大屋敷チームなどの順。女子は小学校チームが一位、以下小学五年、中学校チームの順であった。体育協会と同窓会が主催である。

総合文化祭

10月31日~11月3日 会場は例年のように、ふるさと会館で。出品されたのは、美術作品(日本画、洋画、書道、陶芸、手芸品)、菊の花、各種の盆栽、写真、生け花と盛りたくさんである。例年郷土資料展が展示されていたが、今回は浅田壮太郎先生の遺作が出品されて、今更ながら先生の偉大さが偲ばれた。

美術関係の作品は即売も行われた。かくて片貝の秋から冬は、深まってゆくばかりである。

ふるさと学校

8月17日~20日 今回は8名が参加した。片貝では寺町の児童が、学校の先生をはじめ町の方々から、並々ならぬご

尽力をいただいた。感謝申し上げます。

会員近況

黒崎敬五郎さん(昭6)

書道界における一方の雄としてかねてから活躍されている同氏所属の瑞雲展が、都美術館で七月下旬開催された。又黒崎さんが主宰している黒游展は、八月上旬銀座で開かれた。片貝会員の立派な作品も出品されていた。

吉原貞夫さん(昭26)

三の町の吉源さんの人。子どもの頃から動物好きで、殆んど独学で剝製の技術を身につけ、それを本業として活躍されている。

この度母校の中学校へライオン小パンダ、孔雀など五十余点を寄贈された。アフリカ及び諸外国へも行かれるという。帰郷の際にはぜひ、ご一見をお勧めします。

あとがき

総会にご出席の来賓や会員からご芳志をいただいた。又欠席の方からもお届け下さいました。紙面の都合で、お名前を発表できなかつたことをお詫び申します。

総会には星野小千谷市長、浄照寺様より祝電を頂きました。 深謝